

ACE

Act and Communicate in English



特集

正確さを高める指導のあり方

—児童の学びにつながるインプットとアウトプット—

Have fun with digital textbooks!

(デジタル教科書・教材の機能や活用のヒントの紹介)





正確さを高める指導のあり方

—児童の学びにつながるインプットとアウトプット—

1. はじめに

言語活動の中で児童が活発に話す姿が見られるようになりましたが、語句や表現の正確さに欠けると感じることがあります。間違いを恐れずに話すことはとても大切な姿勢です。伝えたいことは、何かを発話しないと伝わりません。一方で、語句や表現をより正しく用いて話した方が、自分の伝えたいことはより正しく伝わります。その意味で、児童の「知識及び技能」を高めていくことは重要です。

正確さを高めるために、教師やALTの発話モデルの語句や表現を繰り返しまねさせたり、チャンツなどで表現の発音を練習させたり、言いたかったけど言えなかった語句や表現を確認したりすることがよくおこなわれています。しかし、このような機械的な練習や明示的な指導は、児童の学びの段階に合っていない場合には、効果的でないことがあります。

本稿では、発話の正確さを高めるために、遠回りのように思えるかもしれませんが児童の学びを促進するようなインプットとアウトプットの機会のあり方を紹介します。その際、カギとなるのが、児童の「気づき」です。児童は、英語のインプットを受け取り（つまり、英語を聞いて）、語句や表現の音声に気づいたり、その語句や表現がどのような意味を示すのかに気づいたり、ほかの語句や表現との意味の違いに気づいたりします。また、アウトプットする機会によって、言いたかったけれど言えなかったことに気づき、どのように言えばよいのかを学びたいと思ったり、自分の英語が相手に通じたり通じなかったりすることによって、自分の知識が正しいことに気づいたり、間違っていることに気づいたりします。このような気づきが英語の学びにつながります。

2. インプットの質—「気づき」を促すインプット—

児童は、英語の音声とその意味に気づき、そのつながりを学ぶことで、英語を習得していきます。例えば、過去のことを表す I went to Canada. という表現では、/aɪwɛnt(t)əkæənədə/ という音声に気づくことや、「カナダに行った」という意味に気づく必要があります。インプットの質の点から、4つのポイントを紹介します。

第1のポイントは、**語句や表現の意味に気づかせるために、非言語情報（ジェスチャー、実物、イラストや写真など）や児童が理解できる英語を活用すること**です。意味を理解できない音声は、単なるノイズにすぎません。英語が指し示す意味を理解できるようにすることが重要です（「理解可能なインプット」と呼びます）。その際、非言語情報を活用したり、児童がすでに理解できる英語を用いたりします。例えば、“Last month”

と言いながら先月のカレンダーを示します。“This is Japan. This is Canada.”と言いながら世界地図の日本とカナダを示し、日本からカナダまで移動するジェスチャーを示しながら、I went to Canada. と伝えることで、カナダに行ったのだと理解させます。

第2のポイントは、**英語の音声への気づきを促進するために、語句や表現を繰り返し聞かせること**です。意味を理解させたあとで、“Last month, I went to Canada.” と繰り返すことで、英語の音声に注目させやすくなります。ある特定の語句や表現の出現頻度のことを「トークン頻度」と呼びます。トークン頻度を高めることで、語句や表現の音声に気づきやすくなります。また、ALTの先生に、“Last month, I went to Canada. How about you?” と尋ね、“I went to Singapore last month.” と答えてもらうことで、自然なやり取りの中で I went to ... という表現に繰り返し触れさせることができます。

第3のポイントは、**英語の構造への気づきを促進するために、語句や表現のバリエーションを聞かせること**です。教師の I went to Canada. という発話と、ALTの I went to Singapore. という発話を聞くことで、I went to という部分と場所の名前という組み合わせで使われることに気づきやすくなります。また、ALTの発話に対して、“Oh, you went to Singapore.” と伝えることで、I went to ... と You went to ... という構造に気づかせることができます。このように、ある表現のさまざまな使われ方のバリエーションの出現頻度（「タイプ頻度」と呼びます）を高めることで、文構造への気づきを促進できます。

第4のポイントは、**児童の学びの段階に合った語句や表現を聞かせること**です。そのためには、**多種多様な語句や表現を聞かせることが重要**です（「おおざっぱに調整されたインプット」と呼びます）。例えば、I can ... /Can you ...? Yes, I can. No, I can't. のように can を用いた表現がターゲットとなっている Lesson においても、can だけではなく、既出表現を繰り返し用い、必要に応じてその意味を理解させます。can の表現を理解したり用いたりすることのできる段階にいる児童もいれば、それ以前に触れた語句や表現をようやく運用できる段階にいる児童もいます。多様な児童の学びの段階に応じたインプットを与えることが重要です。

3. インプットのタイミング—アウトプットとの関係—

インプットとアウトプットを適切に組み合わせることで、語句や表現の意味内容だけでなく、語句や表現への気づきを高めることができます。

ことばの学びはインプットとアウトプットの繰り返しですが、何をどのようにインプットし、どうアウトプットさせたらよいのか、今一度考えてみませんか。ことばを身につけるための、インプットとアウトプットのポイントについて酒井英樹先生にうかがいました。

第1のポイントは、**Today's Goal**（「本時のめあて」）として、その時間の最後にアウトプットすることをあらかじめ伝え、**聞くことの活動をおこなうこと**です。例えば、「友だちと共通点を探すために、一日の過ごし方を尋ねたり答えたりしよう」という Today's Goal を示します。その上で、教師とALTのやり取りを聞かせます。教師とALTにどのような共通点があったのかという点だけでなく、どのように質問したり答えたりしたらよいのかという言語面にも、児童の意識を自然に向けることができます。

第2のポイントは、**アウトプットの活動のあとにインプットの活動を設定すること**です。話すこと（アウトプット）によって、自分が言いたかったけれど言えなかったことに気づくことができます。この気づきのことを、（自分の英語知識における）「穴の気づき」ということがあります。そのようなときは、一般的に学習者は「どのように言えばよいのか」ということを知りたくなり、インプットに意識を向けることとなります。話すことの活動の途中で、中間指導として、言いたかったけれど言えなかったことを児童に尋ね、明示的にその語句や表現を確認するということがおこなわれますが、児童の問題を解決するようなインプットを与えることによっても学びは促進されます。中間指導として、教師が児童の話していた内容を英語で紹介したり、代表児童の英語をクラスに聞かせたり、教師やALTの英語を聞かせたりすることによって、どのように言えばよいのかを学ばせることができます。例えば、児童Aが、「In Italy, I want to, んー、サッカーを見たい」と発話していた場合、中間指導で、教師が、「A-san said, 'I want to go to Italy. I want to watch soccer games.' Me? I want to go to the USA. I want to watch baseball games.」のように、児童の発話に言及しながら自分のことを話すことによって、児童Aが必要としていた表現「I want to watch soccer games.」を聞かせることができます。

第3のポイントは、**アウトプットの活動の最中に、机間指導として、適宜児童にインプットを与えること**です。リキャスト（「言い直し」ともいいます）は、児童の発話が誤りであることと、どのように言えばよいのかということを示す訂正フィードバックですが、相手の言うことを確認するというコミュニケーション上の役割もあります。児童の発話をよく聞き、適宜リキャストしながら、「あなたの言いたかったことはこういうことですね。伝わりましたよ」というメッセージを児童に伝え、さらに、どのように言えばよいのかというインプットを与えることができます。その際、児童の学びの段階に応じたリキャストを与えるようにしましょう。例えば、日本語で発話している児童には、

語句のレベルでリキャストします。「ピアノが弾ける」と発話した児童には、「The piano? (ピアノを弾くジェスチャーをしながら) Play the piano? I see. You can play the piano.」のようにリキャストし、特に、piano という語や、play the piano という動作を表す句に注目できるようにします。また、語句のレベルで発話している児童には、表現の中に組み入れてリキャストします。「Baseball.」という発話に対しては、「Play baseball? You can play baseball.」のように少しずつ長い表現にして、You can play ... という表現と組み合わせることに気づかせるようにします。語句や表現を用いて発話している児童には、より正しい語句や表現でリキャストします。

4. アウトプットの機会の質

アウトプットの機会そのものが正確さの向上に役立ちます。知っている語句や表現を総動員しながらアウトプットを繰り返すことで、自分のことばで発話する際に、より正しく語句や表現を使いこなせるようにすることが重要です。

第1のポイントは、**類似のアウトプットの機会を繰り返すこと**です。そうすれば、語句や表現を用いることに習熟し、スムーズに使えるようになります（技能の「自動化」と呼びます）。話すことを繰り返すことで、伝えようとする内容や表現を考えて間を空けながら話していた状況から、比較的すらすらと言える状況になります。その際、伝えようとする内容を考え、それに応じた語句や表現を選択し、発話するというプロセスを繰り返すようにすることが重要です。相手が異なれば展開が変わる「話すこと [やり取り]」の活動のように、「話すこと [発表]」の活動においても、毎回、伝える内容を工夫したり、変えたり、相手に応じて説明を加えたりするなど、少しずつ違う英語を取り入れていくことを推奨するとよいでしょう。

第2のポイントは、**ただ伝えるだけではなく、自分の伝えたいことを、より正確で、より整理された、より適切な英語で伝えるように求めていくこと**です（pushed output と呼びます）。児童が、「I have cat.」と発話した際には、リキャストするという方法もありますが、「Cat? One cat? Two cats?」というように確認することで、I have cat. だと正しい英語ではなく、誤解を招く可能性があるということを示すことができます。児童が、「One.」と答えた場合には、「You mean, 'I have a cat.」とリキャストします。また、誤りのある発話だけでなく、正しい発話であっても、より複雑でより適切な表現を求めるようにします。例えば、児童が「I play baseball.」と発話した際には、「Oh, you play baseball.」と受け止めた上で、「You want to say, I can play baseball? I want to play

baseball? I play baseball every day?”のように尋ね、自分が伝えたいことは何かを考えるように求めます。

5. 令和6年度版 CROWN Jr. の指導の例

本節では、CROWN Jr. の教科書を紹介しながら、正確さを高めるための指導方法の例を紹介します。

(1) Small Talk

各 Lesson では、ひとつのトピックについて Small Talk をおこなう時間が設定されています(図1の①参照)。例えば、5年生の Lesson 3 He is my brother. は、全5時間の単元となっています。第1時と第3時に「好きな動物」をテーマにやり取りをおこなう Small Talk が設定されています。Small Talk の主たるねらいは、やり取りを継続するという「思考力、判断力、表現力等」の指導ですが、本稿のテーマである「正確さの向上」の点から、「知識及び技能」の指導を次のようにおこなうとよいでしょう。

第1時と第3時に同じテーマで Small Talk を実施することになっていますが、相手をかえてやり取りをさせてもよいでしょう。その際、自分の知っている語句や表現を総動員してやり取りをおこなうように促します。類似の活動を繰り返すことで、語句や表現の自動化が図れます(「4. アウトプットの機会の質」の第1のポイント)。

また、机間指導しながら、児童のやり取りに加わり、より正確で、より整理された、より適切な英語で伝えるように求めていくようにしましょう(「4. アウトプットの機会の質」の第2のポイント)。その際、児童の学びの段階をよく把握し、適切なインプットを与えるようにしましょう(「2. インプットの質」の第4のポイント)。



図1 CROWN Jr. 5 Lesson 3 Panorama (pp. 42-43)

(2) 授業展開

次に、Lesson の紙面や授業展開を、正確さを高める指導の点から見ていきましょう。

図2は、5年生 Lesson 3 Part 1 の紙面です。左ページで1時間、右ページで1時間の配当となっています。各ページの指導手順例は、次の表のようになっています(指導書から抜粋)。



図2 CROWN Jr. 5 Lesson 3 Part 1 (pp. 44-45)

(Part 1 の左ページの指導手順例)

① Let's Watch	アニメーションを見てターゲット表現の音声、意味、どういう目的や場面で使うかに気づく。
② めあての把握	本時のめあて「友だちの名前を伝える」を把握する。
③ Let's Listen	音声を聞いて、ニックが紹介している人を選ぶ。
④ Let's Speak	友だちの名前を伝える。

(Part 1 の右ページの指導手順例)

① Let's Watch	アニメーションを見てターゲット表現の音声、意味、どういう目的や場面で使うかを思い出す。
② めあての把握	本時のめあて「自分の身近な人について知ってもらうために、友だちや家族について、名前や自分とのかかわりを伝え合う」を把握する。
③ Let's Play	人物になりきって、家族を紹介する。友だちがだれになりきっているのかをあてる。
④ Let's Talk	友だちや家族について、名前や自分とのかかわりを伝え合う。
⑤ Let's Read & Write	ニックが書いた家族についての文を読む。友だちや家族についての文を書く。

第1に、CROWN Jr. では、各ページには、Let's Speak や Let's Talk といったアウトプット活動が必ず設定されています。このことにより、アウトプットを中心とした Today's Goal (「本時のめあて」) を設定しやすくなっています。授業の中心となるアウトプットの活動を意識しながら、Let's Listen や Let's Play においてインプットを受け取ったり、アウトプットしたりすることができます(「3. インプットのタイミング」の第1のポイント)。また、Let's Listen は、音声を聞いて意味を理解するだけでなく、音声を聞いてどのような語句や表現が話されていたかを確認したりするとよいで

しょう。意味の理解や音声との関係の気づきを促進する手順となります。意味の理解の段階では、適宜、非言語情報を活用して理解を促すようにします（「2. インプットの質」の第1のポイント）。また、語句や表現の確認の段階では、教科書の音声を繰り返し聞かせるだけでなく、教師やALTも同じ語句や表現を用いて話すことによって、トークン頻度が高まり、表現の気づきがより促進されます（「2. インプットの質」の第2のポイント）。

第2に、Let's Speak や Let's Talk の活動では、途中でいったん活動をとめて中間指導をおこなえるようにしています。このことにより、アウトプット→インプット→アウトプットという流れが生まれます。中間指導として、言いたかったけれど言えなかったことを明示的に指導するだけでなく、インプットとなるように、教師が児童の話していた内容を英語で紹介したり、代表児童の英語をクラスに聞かせたり、教師やALTの英語を聞かせたりするとよいでしょう（「3. インプットのタイミング」の第2のポイント）。

第3に、左ページに Let's Speak (Lesson によっては Let's Talk)、右ページに Let's Talk (Lesson によっては Let's Speak) が設定されており、類似の言語活動となっている点に特徴があります。両方の活動の間に、Let's Watch を再び視聴したり、Let's Play をおこなったりすることによって、ターゲット表現の習熟度を高めるような構成となっています。つまり、アウトプット→インプット→アウトプットという流れになっています。左ページの活動における児童の発話をよく観察し、学びの段階を把握した上で、Let's Watch や Let's Play などの指導の中で、適宜インプットを与えるとよいでしょう（「2. インプットの質」の4つのポイント）。

(3) チャンツと My Dictionary

CROWN Jr. では、Word Chant と Phrase Chant を用意しています（図1の②参照）。Word Chant は、My Dictionary（絵辞典）を参照しながら語句を練習する活動です。5年生のLesson 3では、第1時と第2時におこなう活動となっています。My Dictionaryに掲載されているイラスト（図3参照）を活用しながら、英語の音声と意味の関係を把握させ、よく聞かせた上で発音する練習をするとよいでしょう（「2. インプットの質」の第1のポイント）。

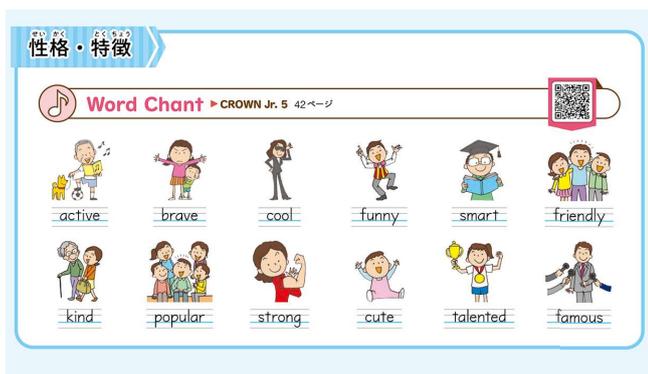


図3 CROWN Jr. My Dictionary (p. 11)

Phrase Chant は、第3時と第4時におこなう活動となっています。第3時からおこなうのは、表現の音声と意味の結びつきに気づいていない段階で、機械的に練習することを避けるためです。

Lessonの最終時（第5時）では、Word Chant や Phrase Chant をおこなわないように計画されています。これは、自分の力で語句や表現を総動員させ、自分のことばで英語を話させることによって、真の力となることを図っているためです。

6. おわりに

児童の間違いが気になると、言語活動とは関連のない機械的な反復練習をさせたり、誤りを修正したりして、直接的に正そうと考えがちです。そうではなく、言語活動と関連づけながら「知識及び技能」の側面を育成することが重要です。本稿では、正確さを高めるための指導のあり方として、学びにつながるインプットとアウトプットとなるような工夫が可能であることを紹介しました。

インプット・アウトプットのポイント（まとめ）

●インプットの質

- ① 語句や表現の意味に気づかせるために、非言語情報（ジェスチャー、実物、イラストや写真など）や児童が理解できる英語を活用する（理解可能なインプット）
- ② 英語の音声への気づきを促進するために、語句や表現を繰り返し聞かせる（「トークン頻度」を高める）
- ③ 英語の構造への気づきを促進するために、語句や表現のバリエーションを聞かせる（「タイプ頻度」を高める）
- ④ 児童の学びの段階に合った語句や表現、多種多様な語句や表現を聞かせる（おおよそに調整されたインプット）

●インプットのタイミング

- ① Today's Goal（「本時のめあて」）として、その時間の最後にアウトプットすることをあらかじめ伝えた上で、聞くことの活動をおこなう
- ② アウトプットの活動のあとにインプットの活動を設定する
- ③ アウトプットの活動の最中に、机間指導として、適宜児童にインプットを与える（リキャスト（言い直し）をする）

●アウトプットの機会の質

- ① 類似のアウトプットの機会を繰り返す（「自動化」を図る）
- ② ただ伝えるだけでなく、自分の伝えたいことを、より正確で、より整理された、より適切な英語で伝えるように求める



酒井英樹（さかい・ひでき）

信州大学学術研究院教育学系教授。中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会外国語ワーキンググループ及び言語能力の向上のための特別チーム委員を務めた。小学校英語教育学会理事、日本児童英語教育学会理事。

Have fun with digital textbooks!

令和6年度から、いよいよデジタル教科書がすべての児童に提供されます。

授業をもっと楽しくする CROWN Jr. のデジタル教科書・教材の機能や活用のヒントをご紹介します。

学習者用デジタル教科書

令和6年度版 CROWN Jr. のデジタル教科書は株式会社 Lentrance が提供する Lentrance Reader で使用します。音声や動画などのコンテンツ、ペンツールなどの活用や、児童の特性に応じた設定が可能です。

活用ポイント 1

教科書の音声を自由自在に再生できる！

英語のデジタル教科書には、教科書のために収録した音声 が搭載されています。自分のペースでいつでも、何度でも、音声を再生して聞くことができます。音声を設定されている画面を呼び出すだけで使用できます。

活用ポイント 2

ペンツールで自由に書き込みができる！

デジタル教科書なら、自由に書き込んだり消したりできます。書き込んだ紙面を画像として残せば、元の紙面と、学びの足跡の両方を見ることができます。



活用ポイント 3

二次元コードで提供するコンテンツを自由に活用できる！

教科書の学びをさらに広げるため、教科書に掲載されている二次元コードで、さまざまなコンテンツを提供しています。学習者用デジタル教科書からもそれらのコンテンツを参照することができます。対応する箇所ごとにアイコンが設定されており、アイコンを押すだけで、コンテンツを簡単に呼び出せます。

活用ポイント 4

自分にとっていちばん使いやすく設定できる！

表示される文字の種類、色、背景の色を設定することが可能です。グレースケールや白黒反転、読み上げ機能のほか、総ルビ・分かち書き表示などで、さまざまな児童の学びを支えます。

ご活用のためのさまざまな情報を提供します。
こちらからアクセスできます。ぜひご覧ください！



文部科学省「令和6年度学習者用デジタル教科書の導入」について

ホームページにて、提供の詳細についてお知らせしています。

ぜひご確認ください。

機能を確認することができる体験版も配信しています。

<https://tb.sanseido-publ.co.jp/digitaltext/support/>

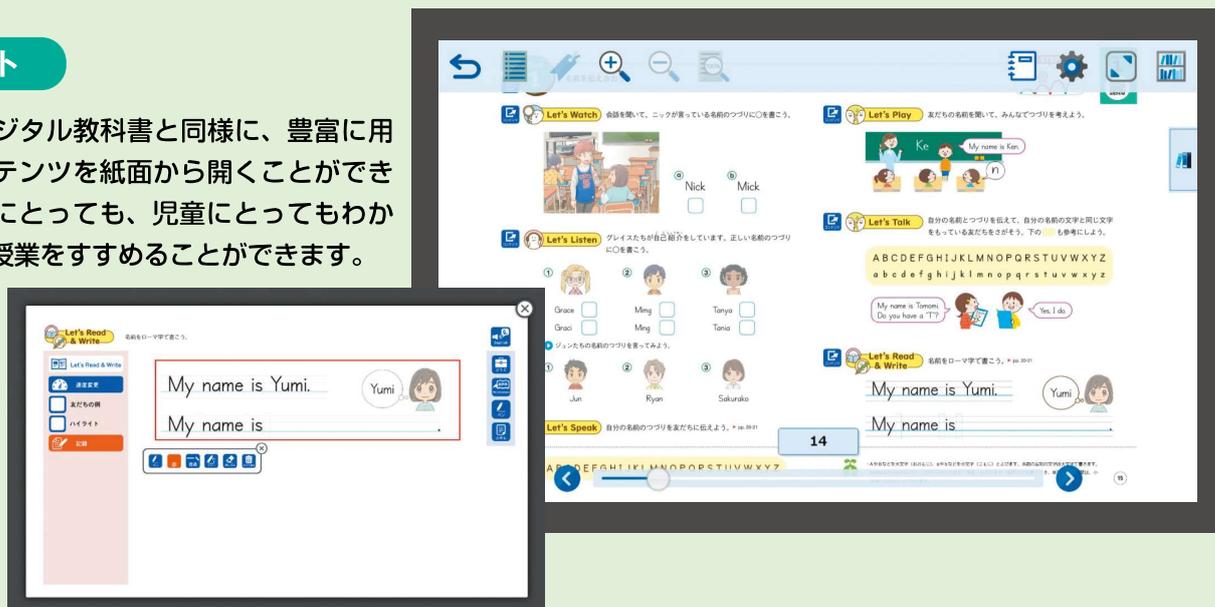


授業をもっとデジタルで、もっと便利に、もっと楽しく 先生向けデジタル教材、デジタルサービスのご案内

指導者用デジタル教科書(教材)

ポイント

学習者用デジタル教科書と同様に、豊富に用意したコンテンツを紙面から開くことができます。先生にとっても、児童にとってもわかりやすく、授業をすすめることができます。



ことまな学校サポートサイト

「ことまな学校サポートサイト」では、さまざまなデータを提供します。

【ご利用手順】

- Teacher's Manual ⑧ 指導用データ集付属の DVD-ROM ジャケットに記載されている「確認コード」を、登録フォームに必要事項とともに入力してください。
- 登録完了メールにて、サイトにログインするための ID とパスワードをご案内いたします。

配信中

データ配信第1弾
指導用データ
評価補充資料

DVD-ROM を読み込めない、複数の先生で Teacher's Manual を共有している、そんなときに便利です。

指導案の Word ファイルや評価に使える補充資料などをご用意しています。

ことまな学校サポートサイト



ICT 実践事例紹介

三省堂では、全国の先生方の実践事例をホームページでご紹介しています。明日からすぐに役立つアイデアを多数掲載。ICT だけでなく、さまざまな観点による実践事例も「授業レポート+」として公開中です。あわせてご覧ください。

https://tb.sanseido-publ.co.jp/ict_practicalexample/



令和6年度版

CROWN Jr. 5 6

デジタル教材のご案内

指導者用

豊富な音声と動画に加え、絵辞典など多様なコンテンツを用意しています。直感的な操作ができるため、テンポよく授業を展開することができます。



「パノラマ」の箇所は、絵辞典機能付き。イラストをタッチすると音声再生されます。

指導を補助する音声

児童に英語で問いかける際の音声を用意しています。

豊富なモデル動画

二次元コードで提供している動画に加え、追加の動画も用意しています。

指導者用デジタル教科書（教材）の主な機能



音声

- ・例文音声
- ・例文音声（追加）
- ・チャンツ音声
- ・チャンツ音声（カラオケ）

動画

- ・モデル動画
- ・モデル動画（追加）
- ・アニメーション
- ・歌

PDF

- ・ワークシートなど
- ・追加資料

ゲーム

- ・単語ゲーム
- ・イラストタッチゲーム

その他

- ・ポートフォリオ
- ・解答表示
- ・英語指示文
- ・友だちの例
- ・スクリプト表示

学習者用

ポートフォリオ機能やチャンツのカラオケ再生など児童の個別な学習を支えます。また、単語ゲームや豊富なコンテンツでさらに深い学びをサポートします。



ポートフォリオ機能を搭載！

Let's Read & Write やふりかえりなどで書き留めたことを一覧できます。

ゲーム感覚で単語学習

パノラマと My Dictionary には、音声とイラストをマッチングするゲームを用意しています。

豊富な音声でしっかり学習

豊富な例文音声に加え、チャンツ音声のカラオケ再生機能などで、何度でもしっかりと学習できます。

指導者用デジタル教科書（教材）

書名	ライセンス期間	ライセンス形式	価格
CROWN Jr. 5	教科書使用期間	学校内ライセンス	88,000円(税込)
	年間	学校内ライセンス	26,400円(税込)
CROWN Jr. 6	教科書使用期間	学校内ライセンス	88,000円(税込)
	年間	学校内ライセンス	26,400円(税込)

※年間ライセンスの期間はご注文月の翌年同月までです。
 ※株式会社 Lentrance の提供する Lentrance Reader でのご利用となります。対応環境は、Lentrance Reader に準じます。
 ※ Lentrance プラットフォームは、「アプリ方式」「校内・自治体配信方式」「クラウド配信方式」の3つの利用方式を用意しています。学校の ICT 環境や運用形態に合わせてお選びください。

学習者用デジタル教材

書名	価格
CROWN Jr. 5	1,650円(税込)
CROWN Jr. 6	1,650円(税込)

※ My Dictionary を含みます（いずれかの学年の初回ご採用時に付属）。My Dictionary の分売はできません。
 ※ デジタル教科書・教材一体型の商品です。
 ※ 株式会社 Lentrance の提供する Lentrance Reader でのご利用となります。対応環境は、Lentrance Reader に準じます。
 ※ 児童1名のご利用につき、1ライセンスが必要です。当該の児童が在学の期間有効です。
 ※ 上記は学校採用専売の商品です。一般向けに販売する商品とは異なります。

本紙掲載の会社名、製品名、商品名などの名称は、各社の登録商標または商標です。

三省堂教科書・教材サイト <https://tb.sanseido.co.jp/>

CROWN Jr. ウェブサイト <https://tb.sanseido-publ.co.jp/e-school/>

三省堂 〒102-8371 東京都千代田区麹町 5-7-2

※この冊子は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って配布しております。